

●現代女性の意識と生活

(福岡女性センター アミカス館長 梁井迪子)

今日は、『更年期医療問題のカウンセリング』ということを考えていく時に、「私たち女性は今どのような状況にあるか」をきちんととらえ直し、また私たちが何をしたらよいかまでお話できればと思っています。資料に沿ってお話を進めていきます。

(資料1) 女性のライフサイクルの変化

このグラフをみると、女性の平均的な生き方がどのように変わってきているかということがわかりになると思います。女の人の人生は、平均63.5歳だったのが、今や81.8歳になってきています。この90年の間に20年近くも長くなってきているのですね。

(資料2) 日本の出生数・合計特殊出生率の変化

女の人生の中で「女の人が大人になったらお母さんになる」これは本当にワンパターンでしたけれど、そのお母さんのなりようが変わってきました。第1次ベビーブーム、その後、丙午の時に減少して、次の丁度、私たちの子供達が第二次ベビーブームの世代です。いわゆる第一次ベビーブームが子供を産み出した時代、そして平成元年から平成3年と、子供の生まれる割合は1.53になり、丙午の時よりも低くなっています。

ところが世界をみても、1950年には26億だった人口が、1992年には54億と、倍以上になっています。たった40年たらずの間にこんなに増えているのです。そして60億を超えるのは1998年だろうと言われていました。多分、2050年を待たずに100億を超える。あの第二次世界大戦のあった頃の人口の4倍になろうとしているのです。そのため今、環境問題など様々な問題が切迫しています。私たちは子供達に何を残してやれるのか、そして私たち自身、今ある人生をどう生きるのかということが大事な課題になってきています。

(資料3) 学校種類別進学率の推移

この資料にあるように、ただ単に人生が長くなって子供を産まなくなったということだけではなく、女の人の内容も変わってきました。女性の高学歴化が進んできました。男女共学は我々の世代

までは非常に珍しかったのですが、今は当たり前のようになっています。また、男女が同じような学歴を身につけていくようになりました。95%の人が高校に進学し、さらに短大・大学の進学率は女性が36.8%、男性が35.8%となっています。例えば看護学校などのような技術を身につけるための専門学校を含めて考えると、女性の進学率は男性をうわまわっています。このように女性と男性が同じような学歴を身につけ、同じような舞台で活躍してきましたから、男性ができることを女性ができないはずがない、やれば出来るということがわかってきたのが今だと思います。

(資料4) 充実・実現させたいもの

やはり一番大事なものは「健康でありたい」ということです。その次に「趣味やレジャーを充実させたい」ということが伸びてきています。「ただ単に長生きするだけではなく、健康で内容のある質の高い生きがいのある人生を送りたい」これが女性の新しいニーズになってきました。一生懸命お母さんとして子供を育ててそれで立派に子供が育ったら、ハイそれで女の人の人生がおしまいはなくなってきた。まず、趣味やレジャーや生きがいなどで内容のある人生を過ごしてみたいと、だけど、その時に一番高いのはまずは、それを保証するものとして健康であり続けたいというのが一番の希望であるわけです。

(資料5) 骨粗鬆症の年齢別発症率

このように男性と女性の差が非常に大きく出ています。ここで更年期のホルモン療法などの問題が出てくるのですが、予防ということになると20代、30代からこの問題をもっと真剣に考えなくてはいけないと思っています。そのような更年期の問題についても女性自身が本気で自分の人生をどう生きようか考えようとしてきているということです。

(資料6) 結婚観

これは「結婚した方が良いと思う人」と「結婚はしてもしなくてもどちらでも良いと思う人」のグラフです。「結婚した方が良いと思う人」は年齢が進むにつれてその割合が高くなり、「結婚はどちらでも良いと思う人」は年齢が進むにつれてその割合が低くなっていきます。45歳位を境に逆転し

ています。世代の間で結婚観ひとつとっても意識が違ってくるということがよくわかります。50代、60代で当たり前だと思っていることが、20代、30代の人にとっては当たり前ではないことがハッキリわかります。特に、男性と女性では、男性が「結婚した方が良いと思う人」が男性が上で、「どちらでもいい」は男性が下になっています。男性と女性の間でも意識のズレが良くできています。

(資料7) 同姓・別姓を選択制にした方がよいと思うか

結婚をしたら夫・妻どちらの姓を選択してもいいのですが、日本では95%以上の方が夫の姓を名乗っています。若い女性の中でも「山田さんと結婚したい。山田博子になった日」なんて素直に想像する人がいるわけです。ですが、これは世界では非常に珍しく、日本は、ある意味では特別な国なのです。

どちらの姓を名乗ってもいいという他の国でも、夫の姓を選択する比率は半分かその少し上というほどです。例えば、カナダでは“夫と別姓でなくてはならない”ということが法律で決められている国もあります。中国では自分の名前を使うことはひとつの女性の権利としてきちんと一般的に認められているのです。

(資料8) 結婚して家庭を築くことの意識

この中で、男性と女性の差をみると「結婚すれば、お互いに高め合う仲間を得ることができ、人間として成長できる」の項目では女性の37.8%に比べて男性は31%で6.8%近くのズレがあります。また逆に「結婚すれば社会的に認められる」という項目では女性の8.2%に対して男性の15.3%というように7%以上のズレがあります。このように女性が結婚に求めるものと男性が結婚で得ようとするものの間のズレはこの辺にあるような気がします。また「お互いに高め合ったり、経済的に安定しあったり」というような保証を持ち合える意味での結婚をしたとしても、子育てだけが人生ではないと考える人も多くなってきました。ですから女性も仕事に役立つ教育や技術をもう少し身につけないといけないと考え、子供にそのようなものを身につけさせようとする親が多くなってきました。

(資料9) 自分の子供にはどの程度の教育が必要だと思いますか？

これは男性の意識調査です。男の子には、ほとんどの人が「大卒以上の資格を身につけさせたい」と答えています。女の子には「短大でよい」が47.3%、「大卒以上」が40.4%です。この調査に答えてくださった男性はまだ子供さんが小、中学校で、若いお父さんなのですが、もう男女観でこれほどの意識の違いが見られます。この違いはどうして出てくるのでしょうか？それが次の資料に現れています。

(資料10) 子供に将来どのような生き方をしてほしいか。

「心豊かな生活をしてほしい」と「家族や周りの人達と円満に明るく暮らしてほしい」という項目をみると分かるように、女の子についてこれを望む親がとても多いことがはっきりと出ています。これが女の子に対する親の希望です。そして男の子には「社会的な信用や信頼」を得て「本人の意思に任せる」から「経済的に恵まれた生活」をし、さらに「社会に貢献する生き方」をしてほしいと望んでいます。ようするに社会の中で生きる人としての期待が男の子に対してグンと強いわけです。

(資料11) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

ところが、この資料をみると昭和62年の結果と平成2年の結果では変化が見られます。この考えに“同感する”という男性は昭和62年には非常に割合が高く51.7%、女性は“同感する”の36.6%と“同感しない”の31.9%の間で揺れ動いていました。それが平成2年になりますと、女性は“同感しない”が43.2%に断然増え、“どちらとも言えない”を加えると世の中は「女は家庭という伝統的な役割を頭から押しつけないでほしい」という体制に傾いてきました。男性が今、昭和62年の女性の状況の中で揺れ動いているとことかもしれません。

平成2年の中でも世代観の違いがハッキリしています。例えば60歳以上の人達は「女性は家庭を守る」という考え方に43.9%の人が賛成しています。ところが20代、30代の人達になるとグッと減ってきていますし、男性の中にもそういう傾向が

強くなってきています。「女性も好きなように生きていいよ、必ずしも家庭だけではないよ」という男性が増えてきたことが数字としても表れています。このようなだんだん伝統的な役割分担意識というものが変わってきて、特に世代の変化がはっきりと見えてきました。そのような中で今、女性達は色々和揺れ動く心を抱えて生きているわけです。

(資料12) 今あなたがしたいことは？

一番多かったことが「収入が欲しい」でした。そして「余裕ある時間を有効に使いたい」「社会とのつながりがほしい」「自分の能力を生かしたい」と続きます。そういう意識を女性が持っているのに対して次の資料をご覧ください。

(資料13) 妻が働くことについて

この資料は、福岡市内の働く男性の意識調査です。「家事や子育てをこなせば働いてもいい」が39.7%で断然多いですね。できれば「働かず趣味等で生活を充実させてほしい」というのが22.5%。空いた時間はカルチャーセンターに行っごらんというのが優しい男性のメッセージと受け止めていいのかな？でも、本当にそれだけで私たちが満足できるのでしょうか？つらい中でも一生懸命働き続けた女性の意識を聞いてみたのが次の資料です。

(資料14) 仕事の位置づけ

これは、管理職クラスで働く女性の意識調査です。色々な働きにくい状況の中で頑張ってきた人達ですが、その人達を対象に「あなたはどのようにして管理職として働き続けてきたのですか？あなたにとって仕事とは？」という問い掛けをしています。もちろん「生活費の取得」によって生活が豊かになるというのが54.2%で一番ですが、「人間として当然のこと」という人が38.4%、「知識・見聞を広めること」という人が33.4%と続いており、働き方が変わってきています。逆に、食べるために働くということから、より豊かにそして、それだけでなく人間として当然のこととして働くという生き方を考えている人が働き続けてきたと言えると思っています。そのような女性の働き方について、男性もおいおいとエールを送ってくれる、送らざるをえない傾向になってきております。

(資料15) 産業(大分類)、男女別15歳以上就業者数

そしてまた、色々な女性達の働き場が広がってきたのも事実です。経済的に自立する女性が増えてきただけでなく、働き方が変わってきたということの一つに職業の分類が広がってきたのです。色々な分野で働いてきた今日のメンバーの中で一番多いのは看護婦さんです。学校の先生と看護婦さんは、女性の伝統的な職業として本当に女性の働くための色々な女性の問題を一番最初に考えながらクリアしながら頑張ってきてくださった職業です。その次に例えば、電話の交換手さんや、デパートなどのサービス業の女性達というのが今まで殆どの女性の職場でした。

ところが最近、女性の職業の中でグンと増えてきたものがこの資料からわかります。増減率が建設業が27.7%、運輸・通信業が38.8%、不動産業が55.5%という分野で増えていることがわかります。不動産業では、宅権や不動産鑑定士などの資格を取ったり、また家のセールスなどは女性としての発言力がとても評価されるようになっていきます。運輸・通信業では例えばタクシーの運転手など以前では考えられなかった分野で女性が活躍しておりますし、ワープロ、コンピューター、ソフトの世界などにもドンドン進出しています。ニュージーランドでは日本のように郵便配達を男性がするというのが不思議でしようがないようですね。これなどは確かに女性がどんどん入ってもいい分野だと思います。

男女共学と高学歴の中でチャンスを経験しながら女の人達が変わってきているのです。

(資料16) 年齢階級別女子の雇用労働力率

しかし、まだまだ女性には働きにくい状況があります。よく言われるM型就労というのがこの資料です。子どもを産む25~35歳位の間働く人が少なくなってきて、子育てが一段落した頃にまた増えてくる、これが日本の女性の典型的な働く姿ですね。ところが、この結果どういう状況になるかといいますと、一生懸命専門の仕事として頑張ってきたが、結婚、出産で辞めてその後また職場に戻ろうとした時に用意される職場というのが非常に限定されてきています。

(資料17) 短時間雇用者数の推移

これは働く女性がどんなに増えてきたかという数字です。とはいえパート労働がいかに多いかがよくわかります。パートでしか働けないというか、パートで社会参加をしているとっている女性が日本ではこんなに多いのです。

(資料18) 女性が働き続けるのを困難にしたり障害になること

どうしてM型労働で、その結果パートが多いのか、ということについての答えがこの資料です。「育児」61.4%「老人や病人の世話」45.3%が仕事を続ける上で障害となる、というように私たち女性にとっては大変大きな数字になってきています。

ここで更年期への取り組みがでてくるわけです。先日、50歳の女性の方にお会いしたのですが、その方は45歳まで一生懸命働いてきた、子育ても終わってホッとして仕事もまたこれからだなと思っていたのだけども辞めてしまったと。「45歳で仕事をやめた動機はなんですか？」と尋ねたら子どものことでも、親の介護でもないのですね。「その頃、なんとなく身体がきつくなった。これ以上無理をしてはいけない、身体がついていかないと辞めた」というのです。ほらほら、更年期の勉強をしておかないからよ、と話しをしたのです。障害となるもののひとつとして「更年期障害」がひとつ入ってくるはずなのですが、情報が足りないものですから、この資料の時にも項目をたてることすら思いつかないということなのです。そういうことから、この中の項目のひとつ「自分の健康」ということの中身をもっと詳しく考えなくてはいけないのと思います。

(資料19) 女性の働きやすさ診断指標

労働省はこの診断指標」をもとに、あなたの職場はこうです、ですからこのように改善してくださいという助言、指導までしてくれるようになっています。女性が働きやすい職場ということで労働省も本気で考えてくれはじめています。

(資料20) 妊産婦に対する健康管理措置の実施事業所の割合

(資料21) 妊娠・出産による退職者の割合

その結果、世の中も随分変わり、妊婦に対する対策をとりはじめた事業所が51年から比べるとグンと増え、それにつれて妊娠・出産による退職者の割合が減ってきました。

(資料22) 育児休業制度実施事業所の割合

この制度を実施している企業が平成2年ではだいたい45%、全体では21.9%となっていてだんだん増えてきています。依然として大企業と中小企業の格差があり、働きやすい職場と働きにくい職場の差がはっきりとでてきていますが、例えばNTTのように女性に沢山働いてもらおうと思っている職場はやはり対策が進んでいるように思います。

(資料23) 女子再雇用軽度実施事業所の割合

この制度も徐々に普及してきました。銀行の窓口なども昔は、若い可愛い女性というところが多かったのですが、ベテランだからこそ相談にのれるので窓口に座る、という風になってきています。むしろ主婦として母親としての経験のある人を活用していこうと世の中が変化しているようです。大企業と中小企業の格差、また再雇用の際のトレーニングの場の不足など問題はありますが、少しずついい方向に変わってきています。

(資料24) きまって支給する現金給与額、所定内給与額の推移

いままでのお話のように世の中は少しずつ変化をしているのですが、一向に縮まらないのが男女の給与格差です。昭和58年からずっと縮まりません。女性の給与は男性の約6割なんですね。さて、世の中は全てこうなのかということではないのです。

(資料25) 非農林業部門における労働者の賃金の男女格差

この資料は男性を100とした時に女性がどのくらいの収入があるかというILOの世界の調査です。日本のように男性の6割などという国が他にあるのでしょうか？韓国が日本よりも低いだけです。どの国も女性が育児休業をとったりする人もいて、女性の経験年数が低くなったりもします。それでも7~8割の給料をとっている。こんなに男女平等

が進み、女性の学歴が世界のほとんど最高水準に達しているというのにこういう状況というのは本当に恥ずかしいのではないかと思います。

(資料26) 衆・参両議院選挙における有権者数、投票者数及び投票率の推移

(資料27) 国会における女性議員数

やはり制度を変えるには国の法律をかえてもらわなくてはならない。国の法律を扱うところは国会です。いつもだいたい有権者数は女性の方が多いのです。投票した実績も多い。このように国の立法に協力しているはずなのにいざとなったら国会における女性の議員数は平成4年の7月の数字は6.5%。100人の中に6人ちょっとしかいないのです。国の人口の半分は女性なのにこのようなことで物事を決めていいのかと思います。

(資料28) 国の審議会などにおける女性の参画状況

国会議員は別にして、もっと細かなことを決めて国会へ提言する審議会に女性が沢山いればいいのではないかと思います。この状況をみてみますと、200の審議会の中で女性を含んだ審議会は78%あります。それでは女性が何人いるのかということで見ると、全体の9.6%です。ですから10人あつまってもものを決める時に1人しか女性がはいっていないということになります。もっと著しいのは都道府県の審議会です。

(資料29) 都道府県の審議会等における女性の参画状況

都道府県の中の審議会の女性の割合は9.0%、女性議員を含む審議会も女性が1人入っている審議会は56.4%。ですから反対からいうと44%は女性をひとりもいれなくて審議していることになります。市町村になるとこの状況はもっと悪くなります。一生懸命子育てをして、一生懸命夫をみとって、そして最後のひとりになった80歳以上の女性達が今、男性の倍以上います。ところがその女性達の老後をどうしてあげるかという例えば厚生省のゴールドプランナーや議会に女性が10%もはいっていない、という状況です。

(資料30) 会長・副会長および役員性の性別

ただ、そのような会に女性を送っただけでは駄目なことがこの資料からわかります。審議会ですから、ほとんどが男性です。ただでさえ女性が少ないのですから、書記などをしないでどンドン発言をすべきだと思います。

(資料31) 公的分野で女性の占める割合

この資料をみると、国連の中には日本の女性が多いことがわかります。国内で力を発揮したくてもできませんから、外資系の会社や国連本部などに出ていくのです。日本の男性がいかに排他的な社会を作っているかの証明だと言えらると思います。

海外協力青年隊に応募する6割が女性だそうです。実際に選ばれるのは5割になるそうですが、そういうこともあって、女性を積極的に生かすためにジャマイカの中に女性部ができたり、浴場が男性よりも大きくなったりという風になっているようです。本当に色々な分野で女性が海外で積極的に働いている話をきくと心強く嬉しい思いがしました。

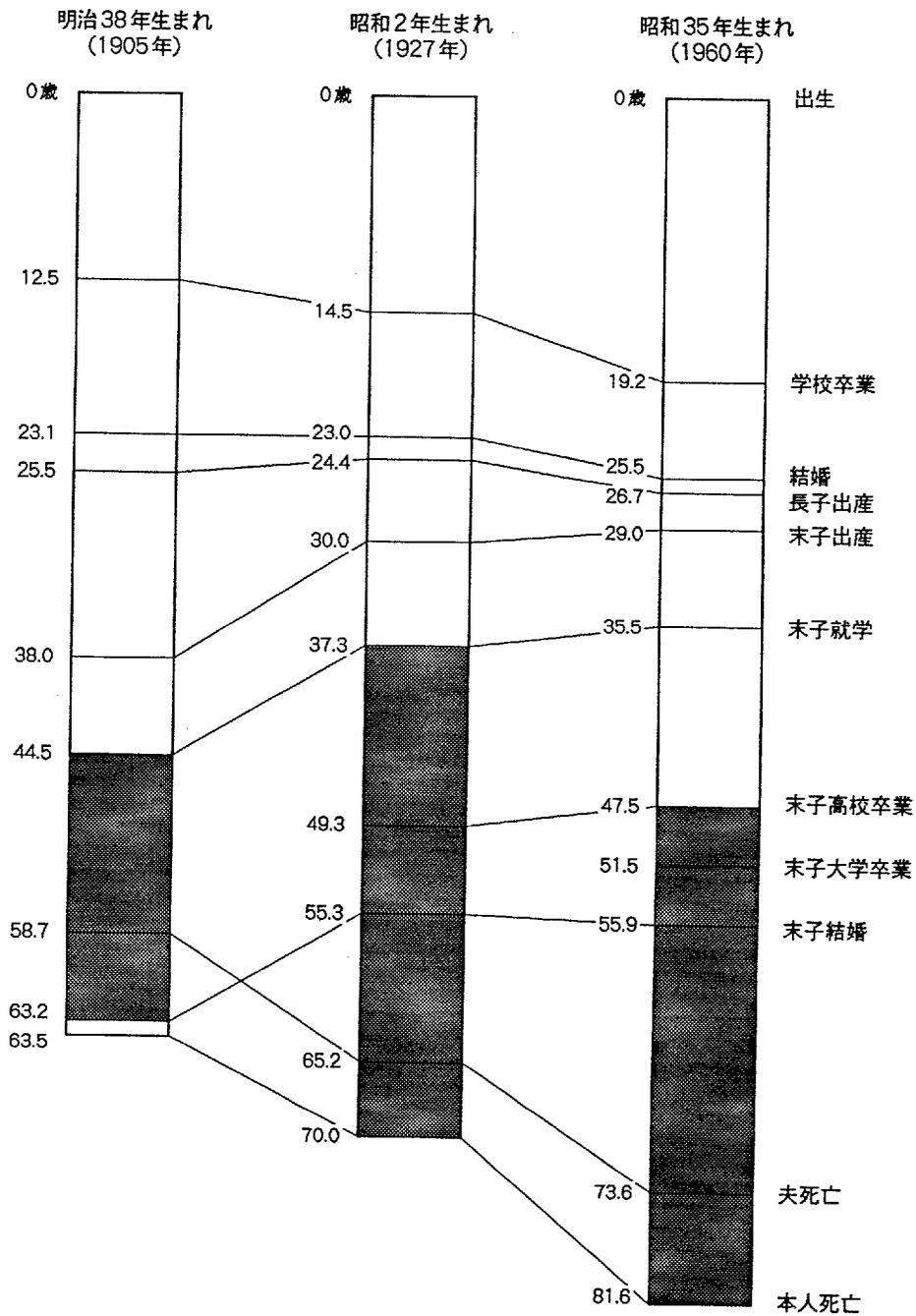
(資料32) 老年人口、高齢化率の推移

(資料33) 主要国の総人口に占める老人人口割合の推移と将来推計

日本の高齢人口の増え方は爆発的で、ほんの少しで世界一の老人人口になります。こういう状況の中ですから、私達も「更年期だから私達の人生もおしまいだ」なんてのんびりしてはいられません。

(資料34) あなたの人生は今、どのあたりですか？

自分が今、人生の中でどういう位置なのか、今は先のために何をしなければならないのか、後に続く若い人達の為に、そして年老いた人達の為に何をしないといけないのか、何をしてあげられるのかということをもっと皆で考えたいと思います。「生きててよかった」「精一杯生きて」「女だから」じゃなくて「私らしく生きたい」と思える、そんな人生であるように思っております。一緒にそんな明日のために頑張りたいと思います。

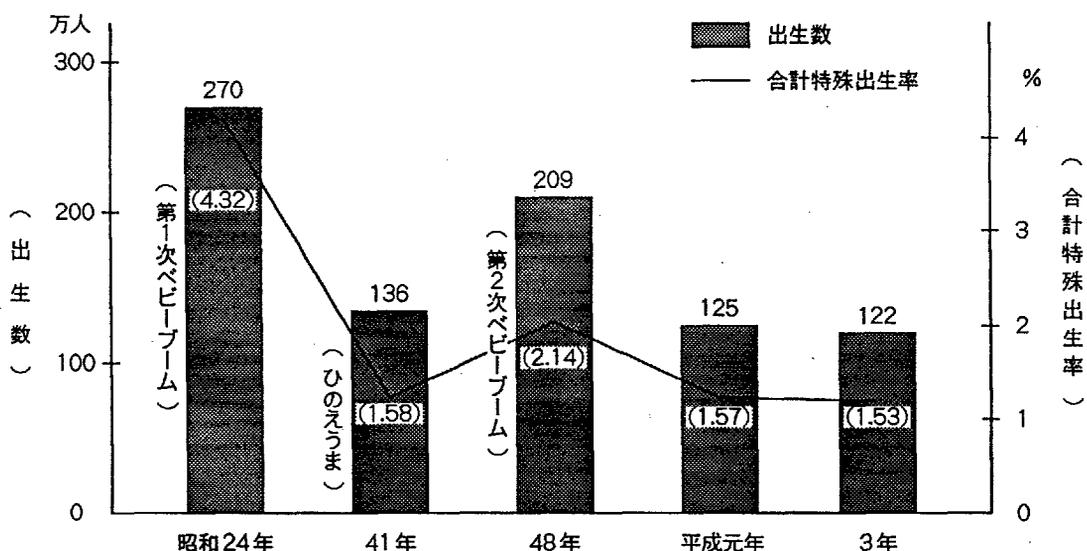


資料1 女性のライフサイクルの変化

(資料) 厚生省「人口動態統計」、「簡易生命表」、「出★力調査」
文部省「学校基本調査」

注) このモデルの出生率は、昭和3年、25年、60年の平均初婚年齢から逆算して設定した。
学校卒業時は、初婚年齢の人が実際進学する年の進学率を用い、他のライフステージは
婚姻時における平均値をもとに作成したものである。

資料2 日本の出生数・合計特殊出生率の変化



資料：厚生省「人口動態統計」

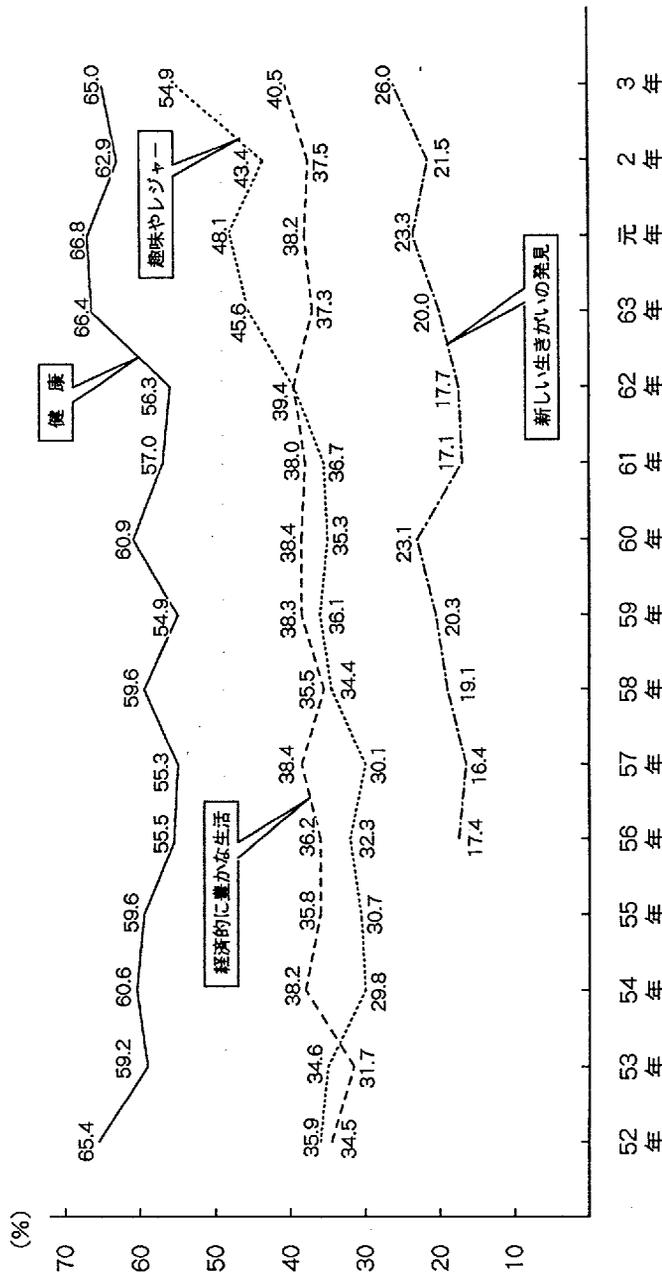
資料3 学校種類別進学率の推移

年	高等学校への進学率			短期大学への進学率			大学への進学率		
	計	女	男	計	女	男	計	女	女
昭和25年	42.5	36.7	48.0	—	—	—	—	—	—
30	51.5	47.4	55.5	2.2	2.6	1.9	7.9	2.4	13.1
35	57.7	55.9	59.6	2.1	3.0	1.2	8.2	2.5	13.7
40	70.7	69.6	71.7	4.1	6.7	1.7	12.8	4.6	20.7
45	82.1	82.7	81.6	6.5	11.2	2.0	17.1	6.5	27.3
50	91.9	93.0	91.0	11.0	19.9	2.6	26.7	12.5	40.4
55	94.2	95.4	93.1	11.3	21.0	2.0	26.1	12.3	39.3
60	93.8	94.9	92.8	11.1	20.8	2.0	26.5	13.7	38.6
平成元年	94.1	95.3	93.0	11.7	22.1	1.7	24.7	14.7	34.1

(資料) 文部省「学校基本調査」

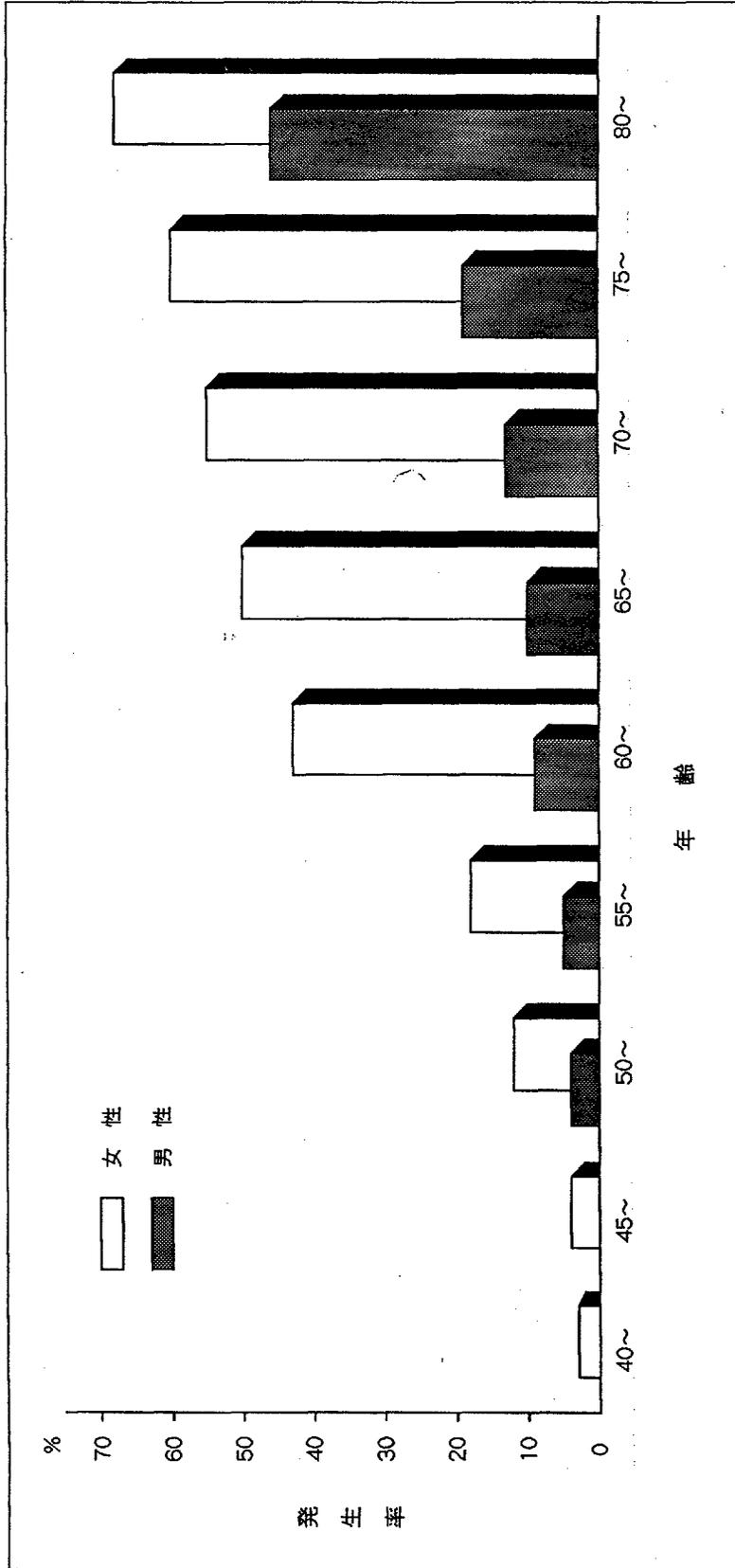
注) 1 高等学校への進学率 = $\frac{\text{進学者数} + \text{就職進学者数}}{\text{中学校卒業生数}} \times 100$

2 大学、短期大学への進学率 = $\frac{\text{大学(学部)・短期大学(本科)の入学者数}}{\text{3年前の中学校卒業生数}} \times 100$
(通信教育者を含まない。)



(RKBデータベース：福岡市・北九州市調査)

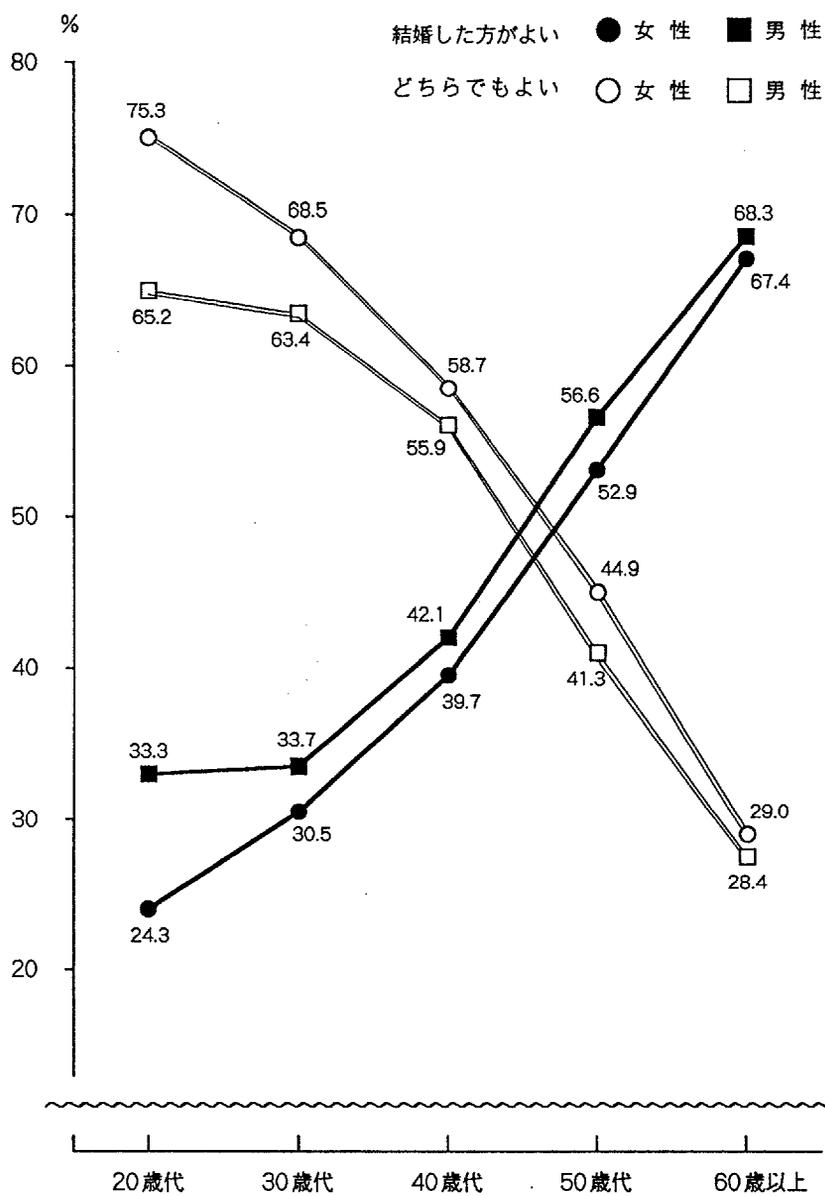
資料4 充実・実現させたいもの



(資料) 井上哲郎：骨粗鬆症はどのような人によく多いか？ 日本医師会雑誌 106 (5) 712~713, 1991.

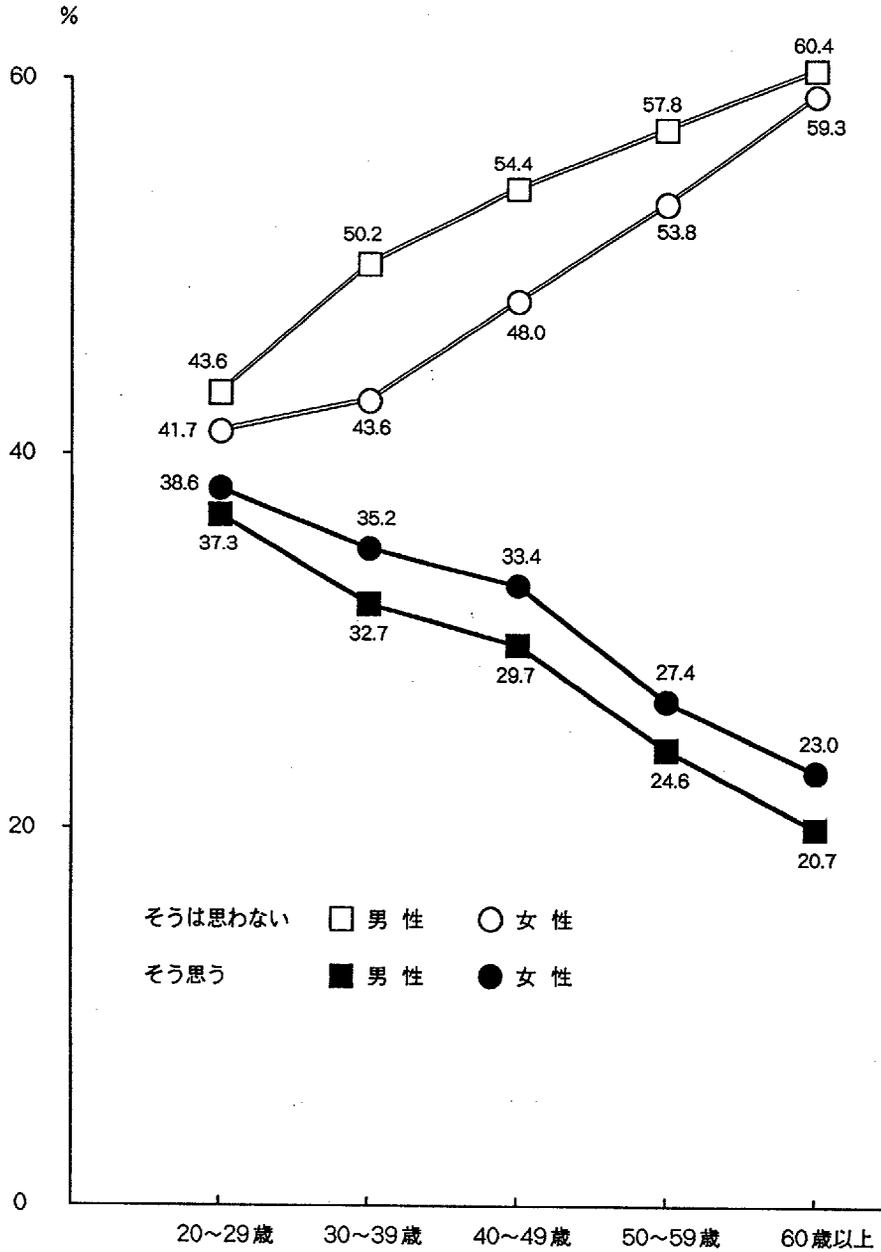
資料5 骨粗鬆症の年齢別発症率

資料6 結婚観

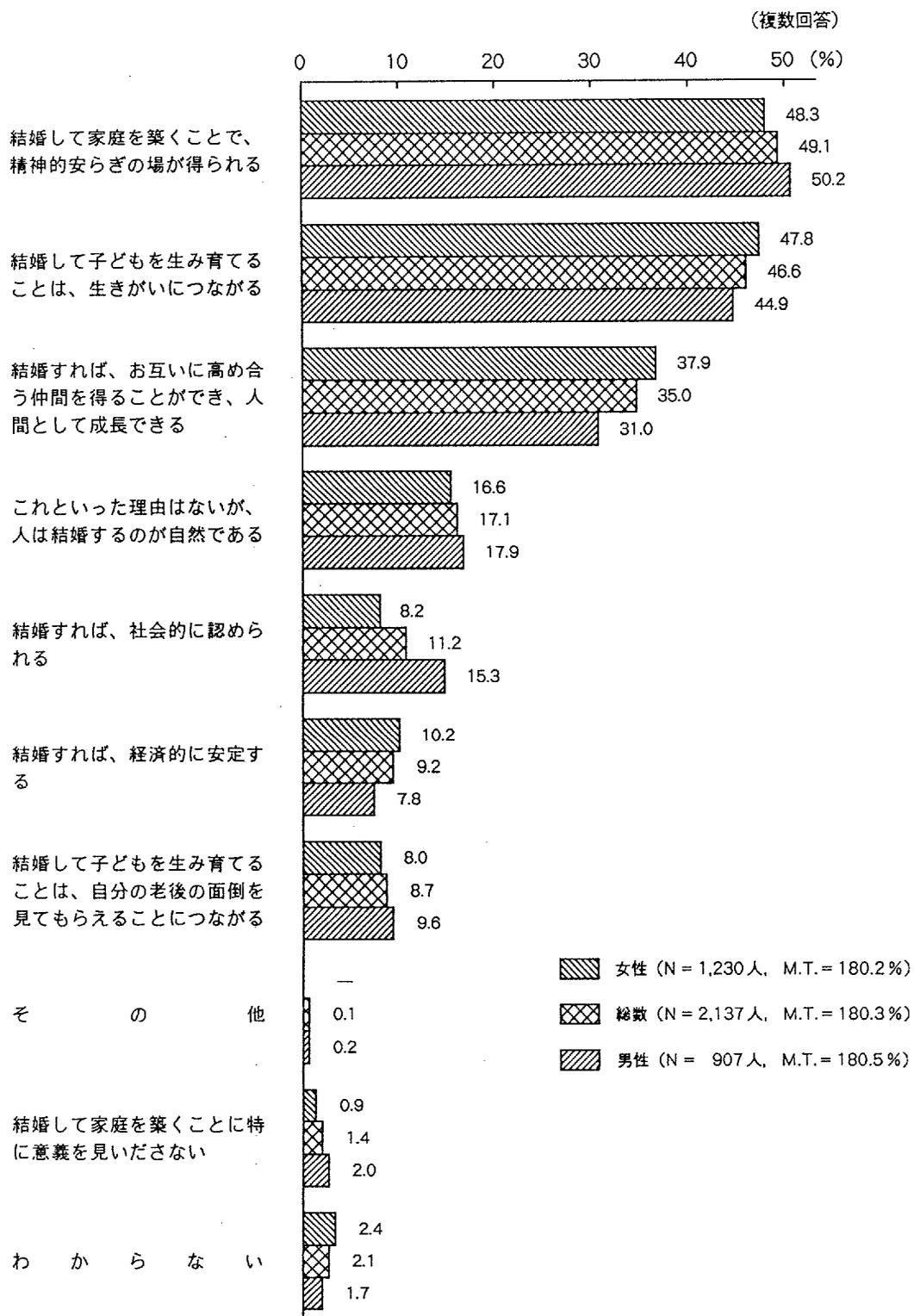


資料出所 総理府 「女性に関する世論調査」

資料7 同姓・別姓を選択制にした方がよいと思うか



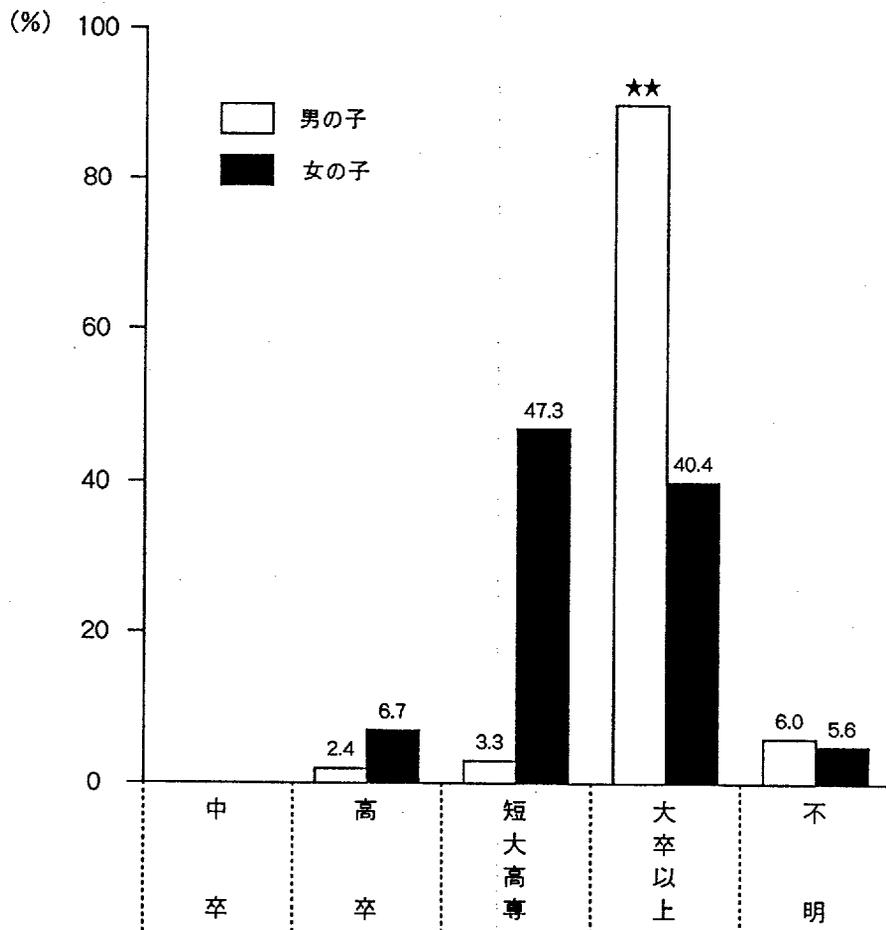
資料8 結婚して家庭を築くことの意識



資料出所：総理府「女性の暮らしと仕事に関する世論調査」(平成3年)

資料9 自分の子供にはどの程度の教育が必要だと思いますか。

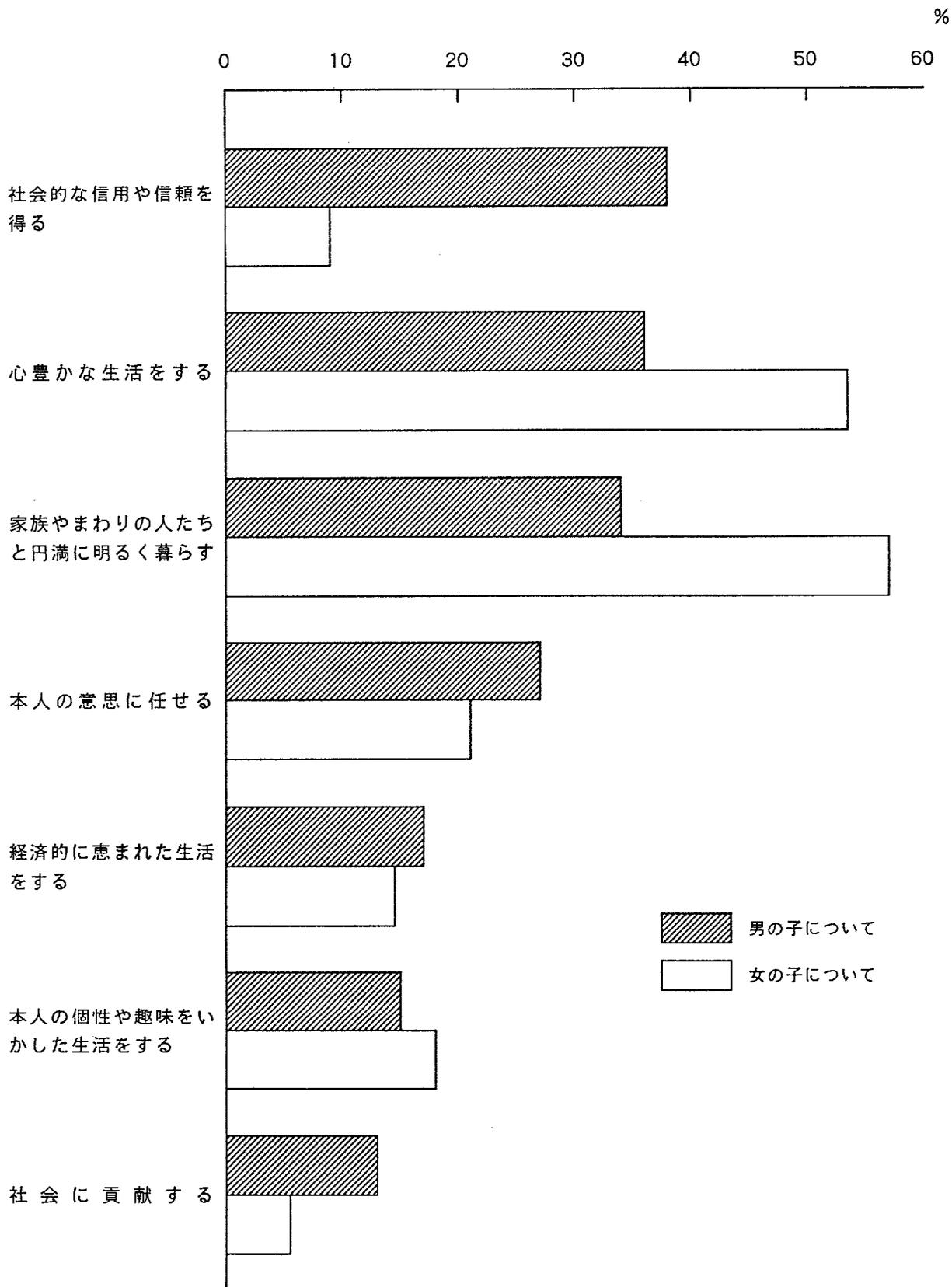
件数 = 2046



件数			男子の場合				
年 代 別	20 代	67	—	7.5	3.0	85.1	4.5
	30 代	356	—	3.1	2.5	87.1	7.3
	40 代	367	—	1.4	4.1	88.6	6.0
	50 代	207	—	1.0	3.9	91.8	3.4
	60 歳以上	26	—	7.7	—	80.8	11.5
件数			女子の場合				
年 代 別	20 代	67	—	10.4	43.3	41.8	4.5
	30 代	356	—	7.3	41.9	44.7	6.2
	40 代	367	—	6.0	48.8	39.2	6.0
	50 代	207	—	5.3	56.0	36.2	2.4
	60 歳以上	26	—	11.5	42.3	26.9	19.2

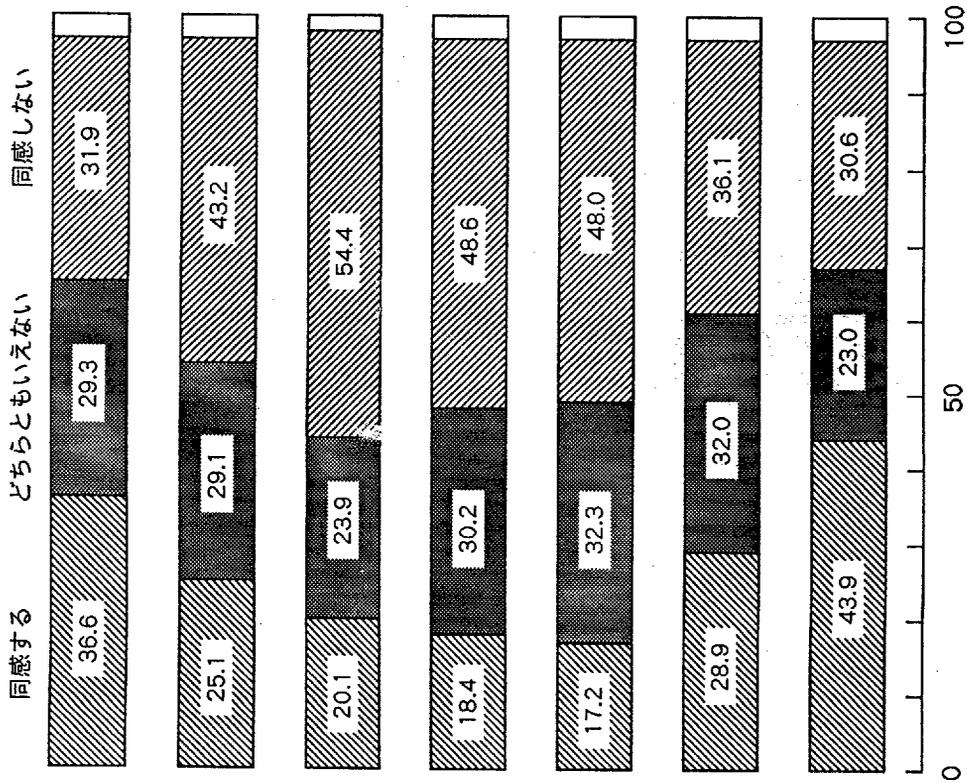
アミカス, 1991

資料10 子どもには将来どのような生き方をしてほしいか

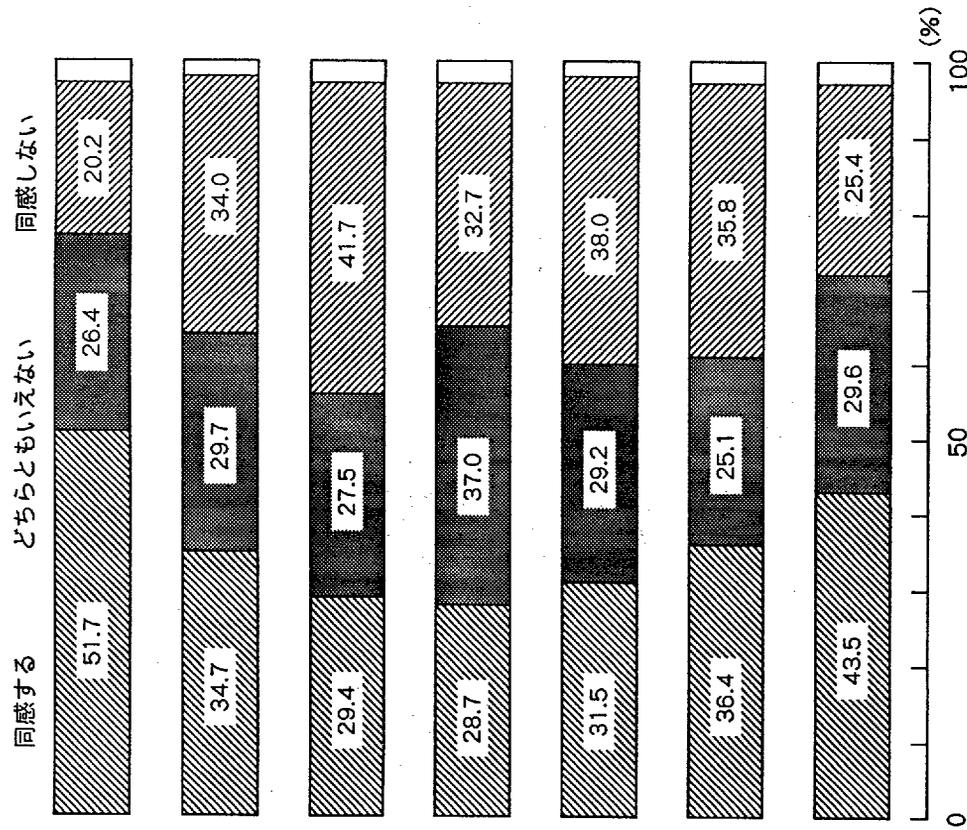


資料出所 総理府世論調査「親の意識」1992年

女性



男性



(資料) 総理府「女性に関する世論調査」(平成2年)

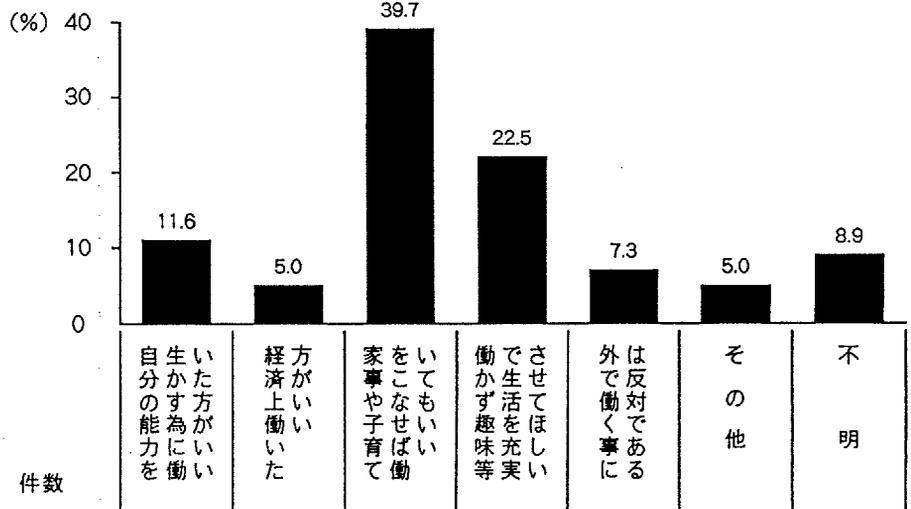
資料11 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

資料12 今、あなたがしたいことは

		サンプル数	収入がほしい	自分の生かしたい能力を	人の役に立ちたい	社会とのつながりがほしい	余裕ある時間を使いたい	働くのあたりまえ	生きがいを持ちたい	将来に備えたい	友達をつくりたい	その他
全体		100.0 73	57.5 42	20.5 15	2.7 2	27.4 20	34.2 25	6.8 5	16.4 12	19.4 14	12.3 9	1.4 1
年代別	20代後半	100.0 8	75.0 6	25.0 2	— —	25.0 2	25.0 2	25.0 2	12.5 1	— —	12.5 1	— —
	30代	100.0 22	72.7 16	40.9 9	— —	9.1 2	22.7 5	9.1 2	9.1 2	18.2 4	13.6 3	4.5 1
	40代	100.0 14	7.1 8	21.4 3	— —	21.4 3	50.0 7	7.1 1	14.3 2	21.4 3	7.1 1	— —
	50代	100.0 23	43.5 10	4.3 1	8.7 2	47.8 11	43.5 10	— —	21.7 5	21.7 5	8.7 2	— —
	60歳以上	100.0 5	20.0 1	— —	— —	20.0 1	20.0 1	— —	40.0 2	40.0 2	40.0 2	— —

(女性の社会参加と支援ネットワーク調査、福岡市女性センター 1992)

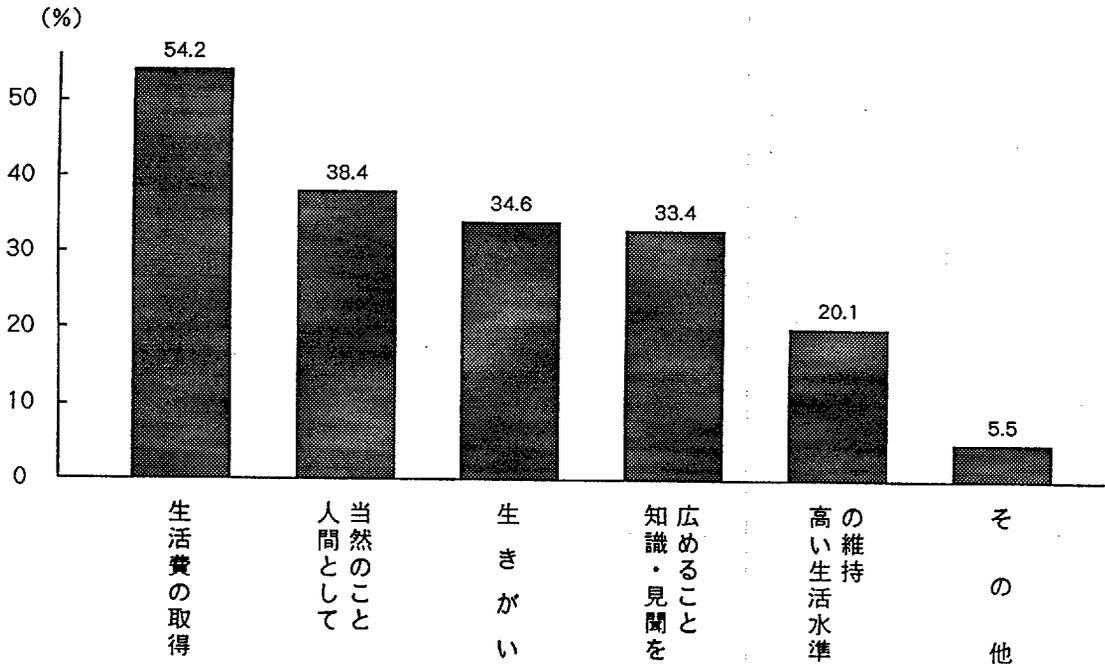
件数 = 662



年代別	件数	自分生かす能力を働かす方がいい	経済上働いた方がいい	家事や子育てをこなせばいい	働かず趣味等で生活を楽しむ	外で働く事に反対である	その他	不明
20代	42	11.9	11.9	40.5	9.5	7.1	9.5	9.5
30代	257	12.5	3.9	46.7	18.7	7.8	4.7	5.8
40代	222	11.7	5.0	41.0	18.9	7.7	5.9	9.9
50代	118	11.0	4.2	26.3	38.1	5.9	1.7	12.7
60歳以上	23	4.3	8.7	17.4	43.5	4.3	8.7	13.0

(資料) 福岡市女性センター・アミカス 1991

資料13 妻が働くことについて



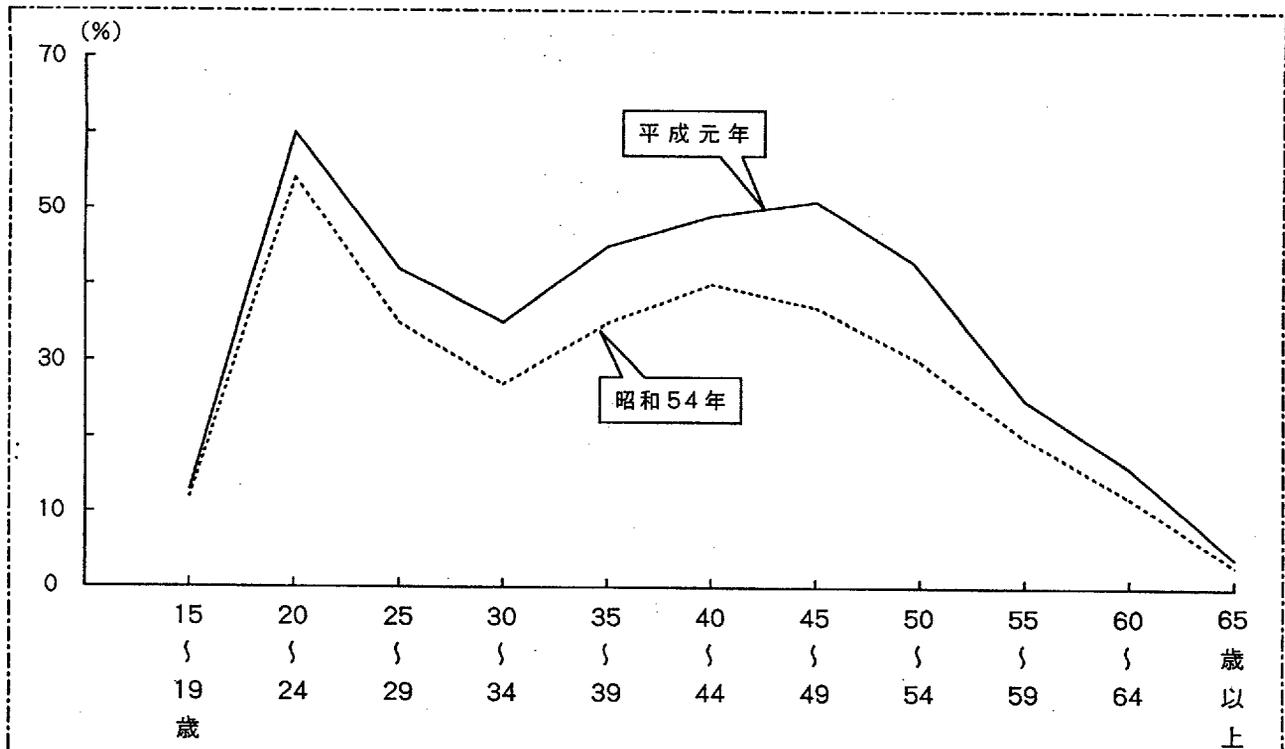
(資料) (財) 女性職業財団「女子管理職調査」(平成元年11月)

資料 仕事の位置づけ (M.A.)

資料15 産業（大分類）、男女別15歳以上就業者数

() は構成比

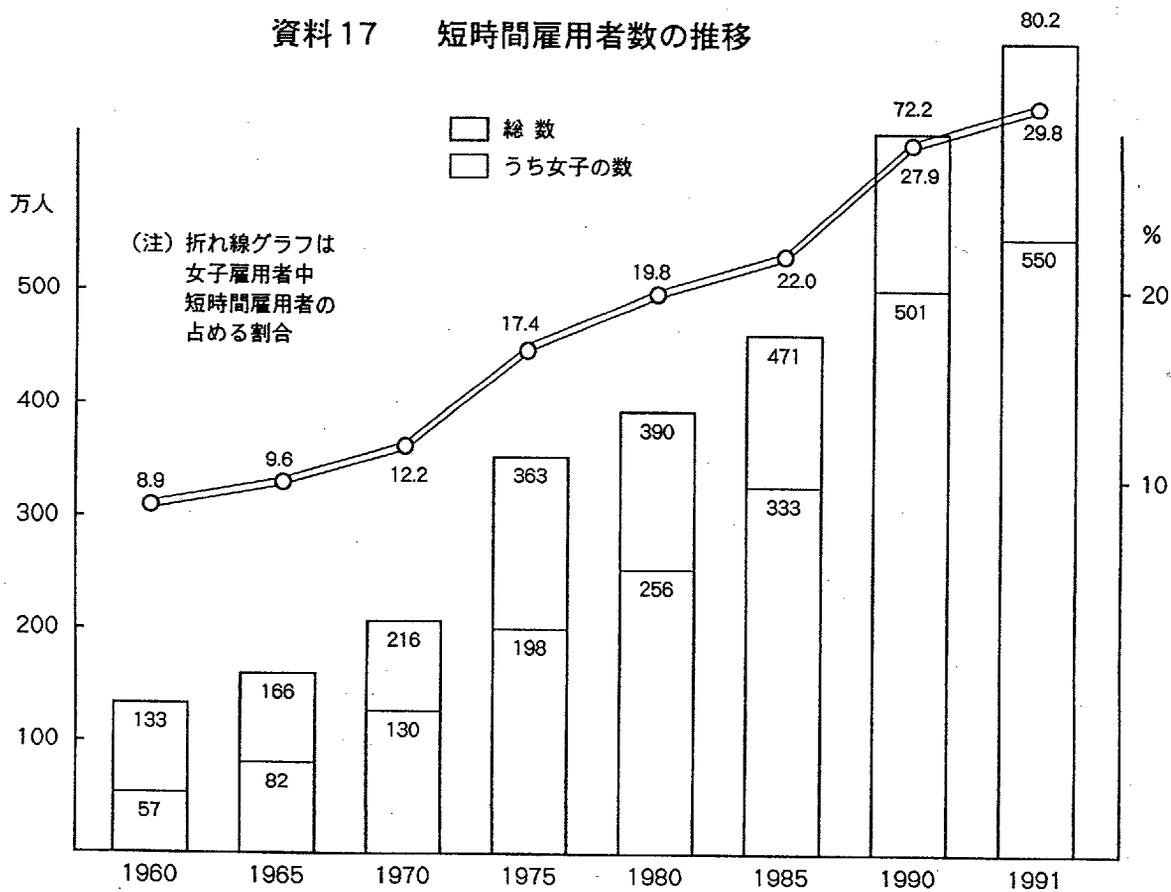
産業分類	昭和60年			平成2年			増減率		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
							%	%	%
総数	523,875 (100.0)	318,438 (100.0)	205,437 (100.0)	582,494 (100.0)	346,326 (100.0)	236,169 (100.0)	11.2	8.8	15.0
A 農業	6,457 (1.2)	3,425 (1.1)	3,032 (1.5)	5,411 (0.9)	2,950 (0.9)	2,461 (1.0)	△16.2	△13.9	△18.8
B 林業	126 (0.0)	108 (0.0)	18 (0.0)	89 (0.0)	77 (0.0)	12 (0.0)	△79.4	△28.7	33.3
C 漁業	2,450 (0.5)	2,216 (0.7)	234 (0.1)	1,909 (0.3)	1,689 (0.5)	220 (0.1)	△22.1	△23.8	6.0
D 鉱業	149 (0.0)	116 (0.0)	33 (0.0)	160 (0.0)	127 (0.0)	33 (0.0)	7.4	9.5	
E 建設業	52,158 (10.0)	44,745 (14.1)	7,413 (3.6)	58,116 (10.0)	48,652 (14.0)	9,464 (4.0)	11.4	8.7	27.7
F 製造業	48,109 (9.2)	30,162 (9.5)	17,947 (8.7)	59,223 (10.2)	37,065 (10.7)	22,158 (9.4)	23.1	22.9	23.5
G 電気・ガス・熱供給・水道業	3,919 (0.7)	3,349 (1.1)	570 (0.3)	3,814 (0.7)	3,316 (1.0)	528 (0.2)	△1.9	△1.0	△7.4
H 運輸・通信業	35,960 (6.9)	31,148 (9.8)	4,812 (2.3)	40,501 (7.0)	33,822 (9.8)	6,679 (2.8)	12.6	8.6	38.8
I 卸売・小売業・飲食店	186,376 (35.6)	104,147 (32.7)	82,229 (40.0)	188,847 (32.4)	101,849 (29.4)	86,998 (36.8)	1.3	△2.2	5.8
J 金融・保険業	23,417 (4.5)	11,906 (3.7)	11,511 (5.6)	25,997 (4.5)	12,202 (3.5)	13,795 (5.8)	11.0	2.5	19.8
K 不動産業	8,702 (1.7)	5,442 (1.7)	3,260 (1.6)	13,207 (2.3)	8,139 (2.4)	5,068 (2.1)	51.8	49.6	55.5
L サービス業	134,302 (25.6)	66,565 (20.9)	67,737 (33.0)	160,675 (27.6)	79,692 (23.0)	80,983 (34.3)	19.6	19.7	19.6
M 公務（他に分類されないもの）	18,332 (3.5)	13,418 (4.2)	4,914 (2.4)	18,380 (3.2)	13,322 (3.8)	5,058 (2.1)	0.3	△0.7	2.9
N 分類不能の産業	3,418 (0.7)	1,691 (0.5)	1,727 (0.8)	6,135 (1.1)	3,424 (1.0)	2,711 (1.1)	79.5	102.5	57.0
(再揚)									
第1次産業 A～C	9,033 (1.7)	5,749 (1.8)	3,284 (1.6)	7,409 (1.3)	4,716 (1.4)	2,693 (1.1)	△18.0	△18.0	△18.0
第2次産業 D～F	100,416 (19.2)	75,023 (23.6)	25,393 (12.4)	117,499 (20.2)	85,844 (24.8)	31,655 (13.4)	17.0	14.4	24.7
第3次産業 G～M	411,008 (78.5)	235,975 (74.1)	175,033 (85.2)	451,451 (77.5)	252,342 (72.9)	199,109 (84.3)	9.8	6.9	13.8



(資料) 総務庁統計局「労働力調査」

資料16 年齢階級別女子の雇用労働力率

資料17 短時間雇用者数の推移



資料出所 総務庁統計局「労働力調査」

資料27 国会における女性議員数

区 分	国会議員数			衆議院議員			参議院議員		
	総数	女性	女性の比率	総数	女性	女性の比率	総数	女性	女性の比率
昭 和	人	人	%	人	人	%	人	人	%
50年 10月	726	25	3.4	475	7	1.5	251	18	7.2
55年 7月	762	26	3.4	511	9	1.8	251	17	6.8
61年 7月	763	29	3.8	512	7	1.4	251	22	8.8
63年 3月	757	29	3.8	506	7	1.4	251	22	8.8
平 成									
元年 7月	749	40	5.3	497	7	1.4	252	33	13.1
2年 2月	763	45	5.9	512	12	2.3	251	33	13.1
4年 7月	752	49	6.5	500	12	2.4	252	37	14.7

資料出所：衆議院・参議院各事務局調べ

資料28 国の審議会等における女性の参画状況

調 査 時 点	審議会 総 数	女性委員を含む審議会数	女性委員を含む審議会の比率	委 員 総 数	女 性 委員数	女性委員の比率
			%	人	人	%
昭 和 50年 1月 1日	237	73	30.8	5,436	133	2.4
60年 6月 1日	206	114	55.3	4,664	255	5.5
63年 3月 31日	203	123	60.6	4,509	297	6.6
平 成 元年 3月 31日	203	121	59.6	4,511	304	6.7
2年 3月 31日	204	141	69.1	4,559	359	7.9
3年 3月 31日	203	154	75.9	4,434	398	9.0
4年 3月 31日	200	156	78.0	4,497	432	9.6

資料出所：総理府調べ

(注) 国家行政組織法第8条に基づく審議会を対象に調査

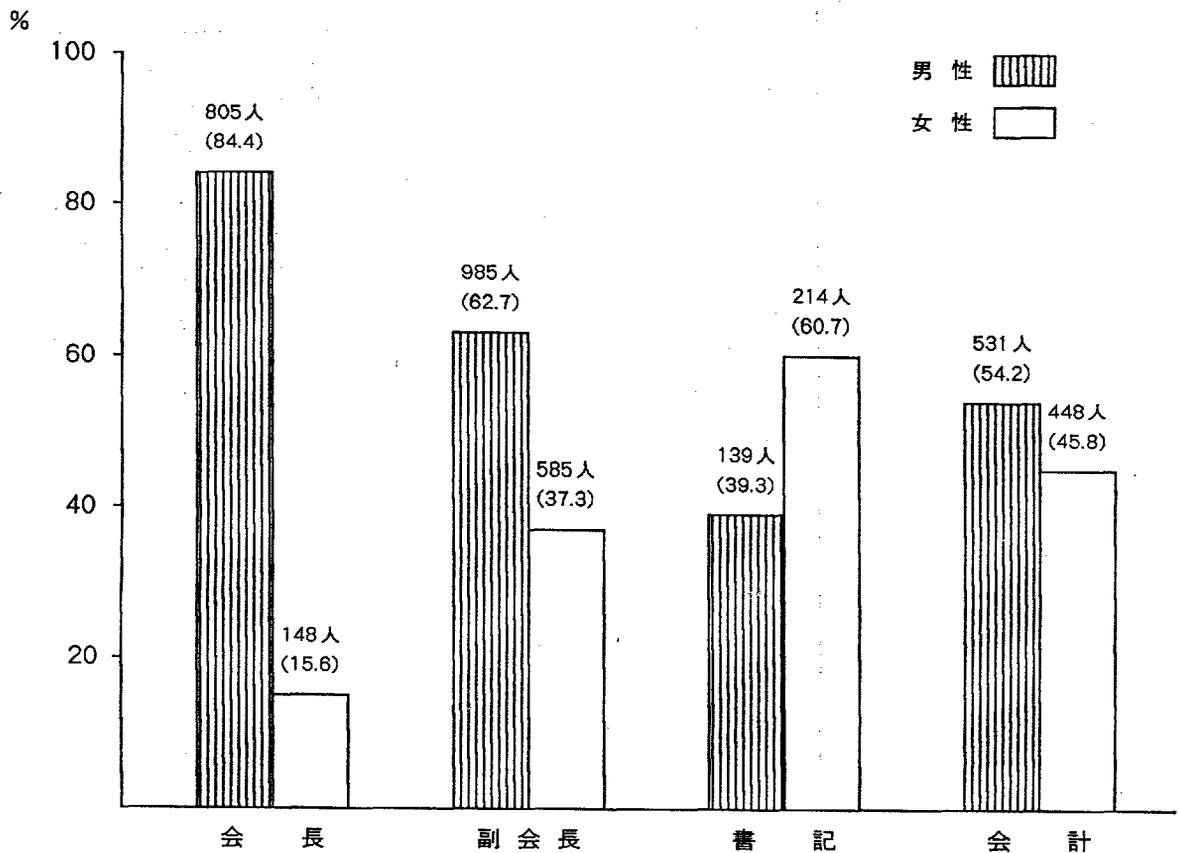
資料29 都道府県の審議会等における女性の参画状況

	審議会 総数	女性委員を 含む審議会 数	女性委員を 含む審議会 の比率	委員 総数	女性 委員数	女性委員 の比率
			%	人	人	%
昭和 63年	1,713	842	49.2	43,403	3,524	8.1
平成 元年	1,718	884	51.5	44,453	3,635	8.2
2年	1,712	923	53.9	43,771	3,810	8.7
3年	1,706	963	56.4	43,686	3,943	9.0

資料出所：労働省調べ（各年6月1日現在）

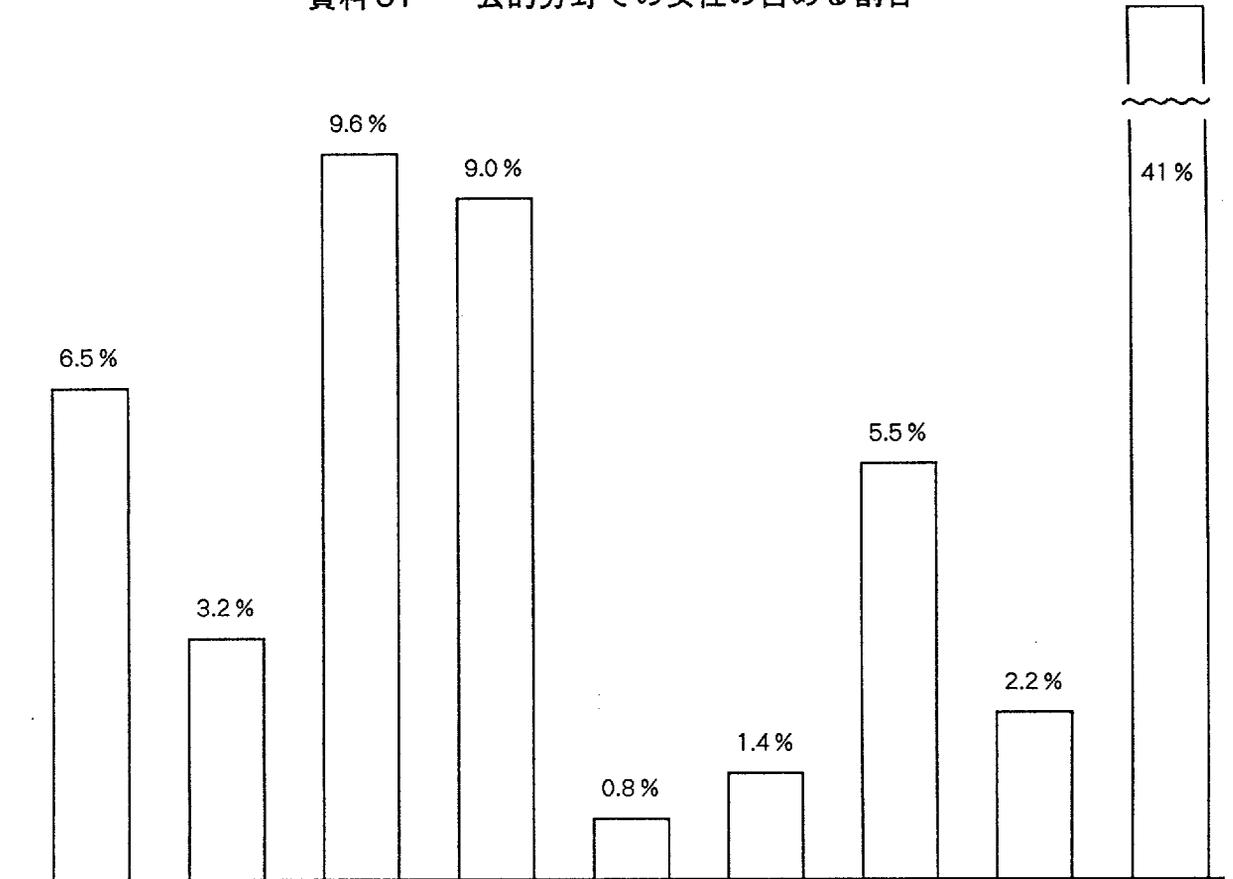
(注) 地方自治法第202条の3に基づく審議会等を対象に調査

資料30 会長、副会長および役員性の性別



資料出所 兵庫県「地域団体の長に関する実態調査」1991年

資料31 公的分野での女性の占める割合



平成4年7月末現在
国会議員に占める女性の割合

平成3年12月末現在
地方議会概念に占める女性の割合

平成4年3月末現在
国の審議会等委員に占める女性の割合

平成3年6月1日現在
都道府県の審議会等委員に占める女性の割合

平成3年3月末現在
国家公務員の指定職及び行政職9級以上の者に占める女性の割合

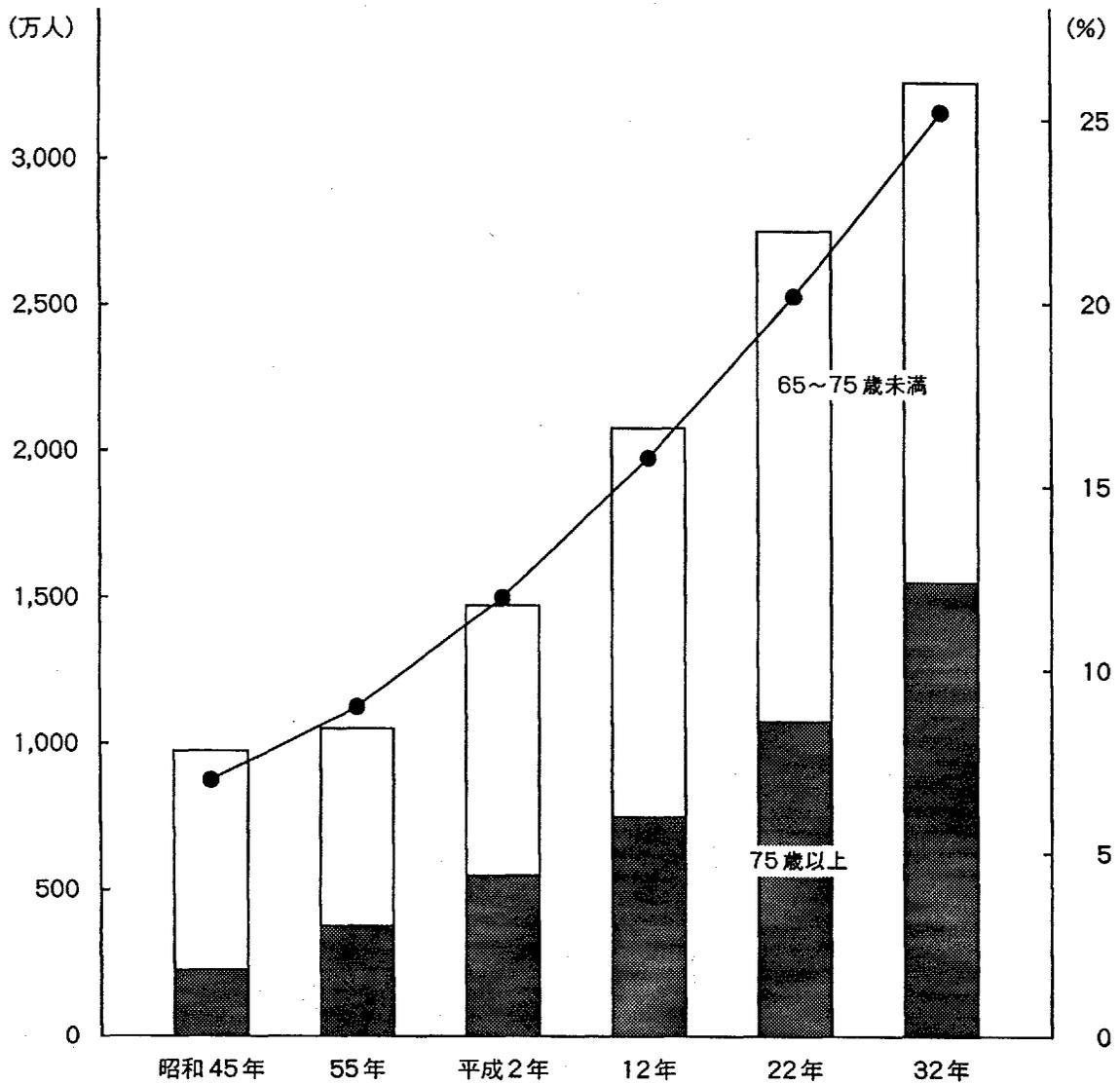
平成3年6月1日現在
都道府県における女性管理職木庁課★職以上の割合

平成3年6月1日現在
裁判官に占める女性の割合

平成3年3月末現在
検察官に占める女性の割合

平成3年6月末現在
国連事務局における日本人女性職員

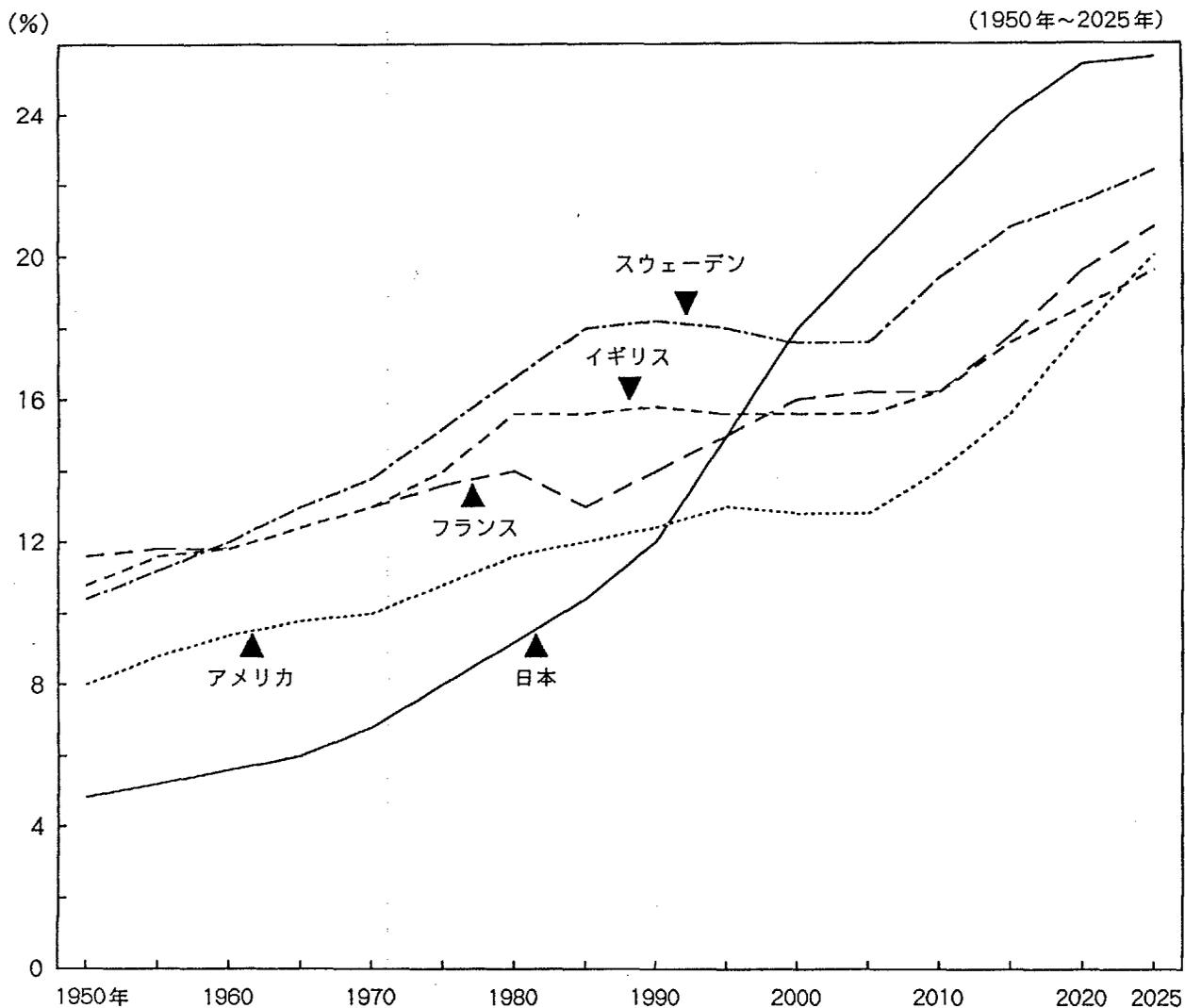
資料32 老年人口、高齢化率の推移



資料出所 平成2年までは総務庁「国勢調査」
 平成12年以降は厚生省人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成3年6月暫定推計）」

注)
$$\text{高齢化率} = \frac{\text{65歳以上人口}}{\text{総人口}}$$

資料 33 主要国の総人口に占める老年人口割合の推移と将来推計



資料出所: United Nations, The Aging of Populations and its Economic and Social Implications (1956)

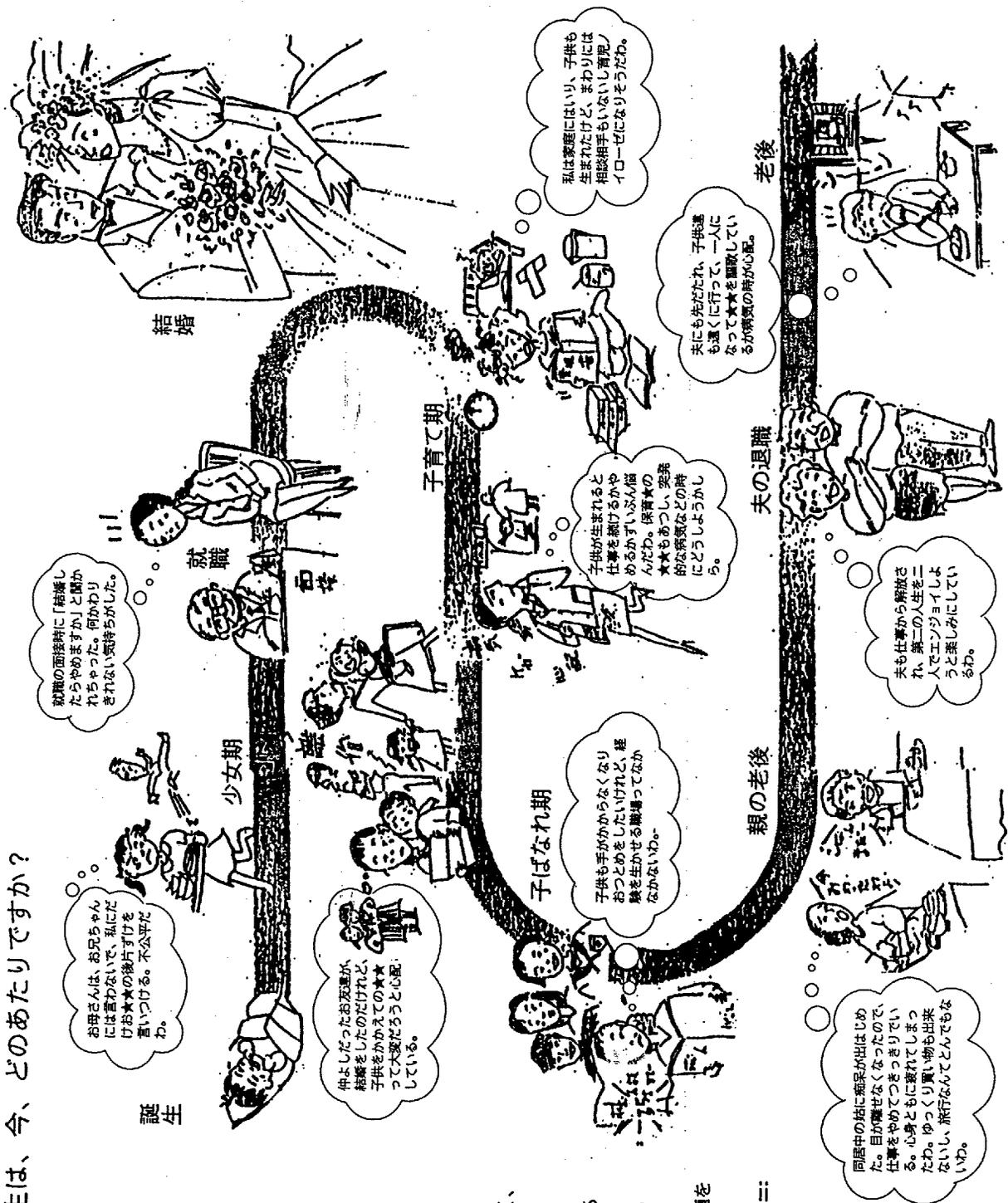
United Nations, World Population Prospects: Estimates and Projections as Assessed in 1990

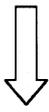
日本は国勢調査及び人口問題研究所「日本の将来人口推計(平成3年6月暫定推計)」による。

資料34 あなたの人生は、今、どのあたりですか？

きょうの私を
見つめていたら
あしたの私が
見えてきた

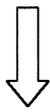
ときにはゆったりと、ときにはテンポよく、
そして、ときには何かにぶつかって
曲がりくねりながら。
私たちの人生って、歳月の上を流れ続ける
長い長い川のようなものかもしれません。
あなたの人生は、今、どのあたりですか？
そしてどんなことを感じていますか？
すべての女性が抱えているさまざまな問題を
今ここで一緒に考えてみませんか。





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



現代女性の意識と生活

女性のライフサイクルの変化

日本の出生数・合計特殊出生率

学校種類別進学率の推移

充実・実現させたいもの

骨粗しょう症の年齢別発症率

結婚観

同姓・別姓を選択制にした方がよいと思うか

結婚して家庭を築くことの意識

自分の子供にはどの程度の教育が必要だと思いますか

子供に将来どのような生き方をしてほしいか。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について

今あなたがしたいことは

妻が働くことについて

仕事の位置づけ

産業(大分類)、男女別 15 歳以上就業者

年齢階級別女子の雇用労働力率

短時間雇用者数の推移

女性が働き続けるのを困難にしたり障害になること

女性の働きやすさ診断指標

妊産婦に対する健康管理措置の実施事業所の割合

妊娠・出産による退職者の割合

育児休業制度実施事業所の割合

女子再雇用軽度実施事業所の割合

きまって支給する現金給与額、所定内給与額の推移

非農林業部門における労働者の賃金の男女格差

衆・参議員選挙における有権者数、投票者数及び投票率の推移

国の審議会などにおける女性の参画状況

国会における女性議員数

国の審議会などにおける女性の参画状況

都道府県の審議会等における女性の参画状況

会長・副会長および役員の性別

公的分野で女性の占める割合

老年人口、高齢化率の推移

主要国の総人口に占める老人人口割合の推移と将来推計

あなたの人生は今、どのあたりですか



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



現代女性の意識と生活

女性のライフサイクルの変化

日本の出生数・合計特殊出生率

学校種類別進学率の推移

充実・実現させたいもの

骨粗しょう症の年齢別発症率

結婚観

同姓・別姓を選択制にした方がよいと思うか

結婚して家庭を築くことの意識

自分の子供にはどの程度の教育が必要だと思いますか

子供に将来どのような生き方をしてほしいか。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について

今あなたがしたいことは

妻が働くことについて

仕事の位置づけ

産業(大分類)、男女別 15 歳以上就業者

年齢階級別女子の雇用労働力率

短時間雇用者数の推移

女性が働き続けるのを困難にしたり障害になること

女性の働きやすさ診断指標

妊産婦に対する健康管理措置の実施事業所の割合

妊娠・出産による退職者の割合

育児休業制度実施事業所の割合

女子再雇用軽度実施事業所の割合

きまって支給する現金給与額、所定内給与額の推移

非農林業部門における労働者の賃金の男女格差

衆・参議員選挙における有権者数、投票者数及び投票率の推移

国の審議会などにおける女性の参画状況

国会における女性議員数

国の審議会などにおける女性の参画状況

都道府県の審議会等における女性の参画状況

会長・副会長および役員の性別

公的分野で女性の占める割合

老年人口、高齢化率の推移

主要国の総人口に占める老人人口割合の推移と将来推計

あなたの人生は今、どのあたりですか